

オオタチヤナギ（ヤナギ科シロヤナギ節）の鹿児島県における記録

著者	丸野 勝敏
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	35
ページ	59-62
別言語のタイトル	Records of <i>Salix pierotii</i> from Kagoshima Prefecture, Japan
URL	http://hdl.handle.net/10232/18074

オオタチヤナギ（ヤナギ科シロヤナギ節）の鹿児島県における記録

丸野勝敏

〒 891-0113 鹿児島市東谷山 1-51-8

■ はじめに

鹿児島県の湖沼，河川敷に群生するヤナギ類はジャナギ *Salix eriocarpa* Fr. et Sav. とされてきたが（初島，1978），初島（2004）は近縁種のオオタチヤナギ *S. pierotii* Miq. を追加している。しかし標本は発表していない。オオタチヤナギとジャナギの2種の取り扱いについて，北村・村田（1979）は同種とし，木村（1989）は別種とし，ジャナギは雄株が見つからないこと，側脈は平行して乱れないこと，枝端の若葉はほとんど無毛に近いこと，背腹両腺体が側方でしばしば合着することなどで区別できるとしている。最近の取り扱いには別種が多い（長谷川，1988；初島，2004；南谷，2004）。福岡県・宮崎県の記録はオオタチヤナギを普通，ジャナギは稀としている（益村，2000；南谷，2004）。筆者は最近鹿児島県下のいくつかの場所でオオタチヤナギを確認したので報告する。

■ 調査地および材料と方法

南さつま市万世佐方の生育地は，谷間に入り江状に田が広がりイネ作が行われていた。この付近で休耕田が見られるようになり，休耕田は年々広がってきた。この一角で，2001年10月29日ホシクサ類の観察を行い，ホシクサ，クロホシクサ，ヒロハホシクサ，ミズネコノオを確認した。同場所を2008年3月22日に訪れてみるとヤナギ類の群生地にかわり，雄株，雌株ともに開花していた。2008年8月13日に近くの谷間を調べてみ

るとヤナギ類の群生地があちらこちらにみられた。この調査地で5枚の標本を採集した [K. Maruno, 南さつま市万世佐方, Mar. 22, 2008, s.n. (×3枚); K. Maruno, 南さつま市万世佐方, Aug. 23, 2008, s.n. (×2枚)]。

祁答院町藺牟田池の北西部には，ヤナギ類の群生地がある。しかし，原口（1971），水野（1981），大野（1984）らは，同所からヤナギ類を報告していない。

2008年4月30日に訪れてみると雌株はみられたが，雄株は見出すことはできなかった。種子から発芽した小苗を探したがみつからなかったが，落下した小枝から発根した小苗が稀にみられた。本調査で3枚の標本を採集した [K. Maruno, 祁答院町藺牟田池, Apr. 30, 2008, s.n. (×2枚); K. Maruno, 祁答院町藺牟田池, July 12, 2008, s.n.]。

雌花序は，実体顕微鏡を使って分解し，小花を取り出し，苞，雌しべ，腺体の付く位置，形を調べた。葉は葉形，葉脈，葉質を調べた。葉形，葉質は標本を目視し比較した。葉脈は側脈が中肋から出る内角を測定した。また樹皮と葉の観察も行った。

■ 観察結果

南さつま市万世佐方

雌花序（図1）は長さ1～1.5 cm，35個ほどの小花があり，小花は苞腋に生じ，雌しべ・腺体のみられた。苞（図2）は楕円形，白毛で覆われ雌しべより短かった。雌しべ（図3）は長さ3 mmほど，子房は白毛で覆われ，柱頭は二又に分かれていた。腺体は長さ0.5 mmほど，楕円状円頭形で向軸側に1個みられた。雄花序（図4）の小花は2個の雄しべ（図5）があり，葯の色は紅色であった。

Maruno, K. 2009. Records of *Salix pierotii* from Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 35: 59-62.

☒ 1-51-8 Higashi-taniyama, Kagoshima 891-0113, Japan (e-mail: bhh000368641@sat.bbiq.jp).

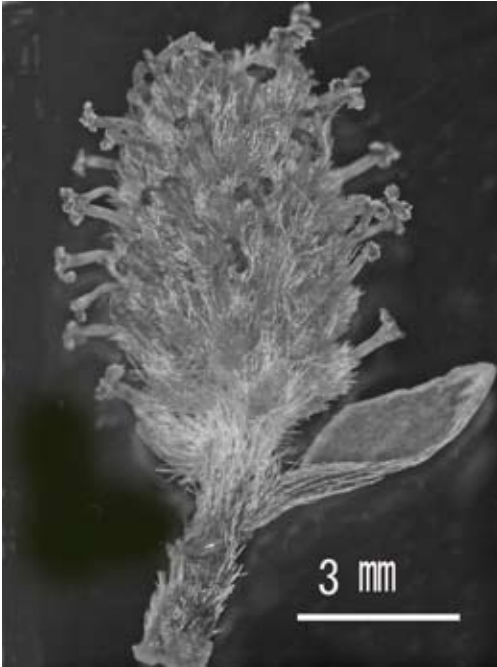


図1. 雌花序 (佐方).

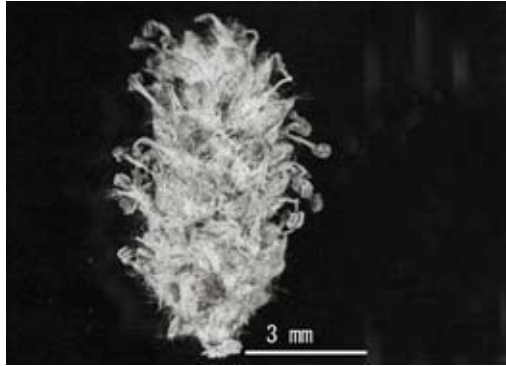


図4. 雄花序 (佐方).



図5. 雄しべ (佐方).

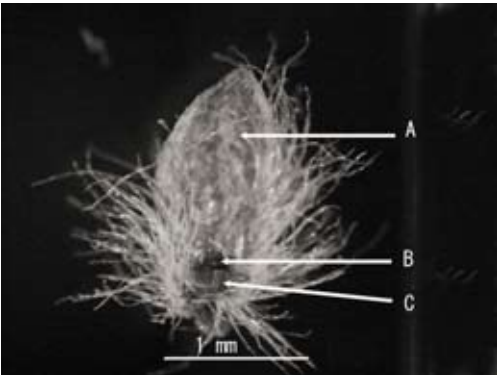


図2. 腺体と苞 (佐方). A: 腹腺体, B: 子房痕, C: 苞.

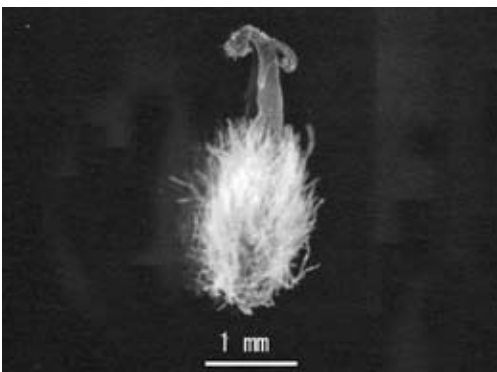


図3. 雌しべ (佐方).



図6. 標本; 雌株 (佐方). K. Maruno, s.n.

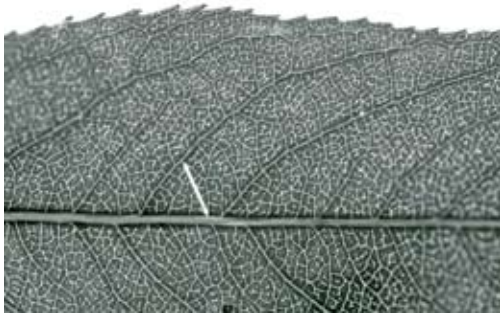


図7. 葉脈 (佐方).

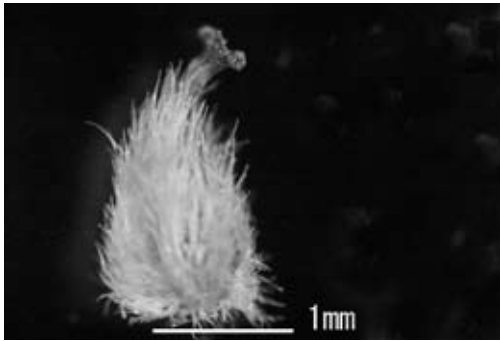


図8. 小花 (蘭牟田池). 雌しべと苞 (外側).

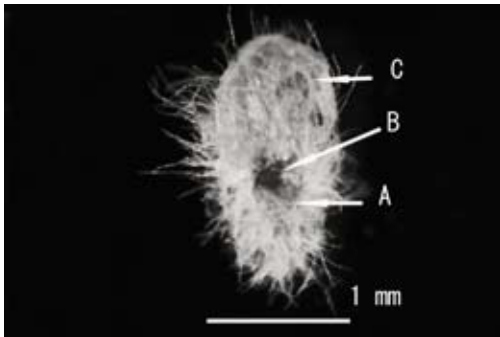


図9. 腺体と苞 (蘭牟田池). A: 腹腺体. B: 子房痕. C: 苞.

葉 (図6) は狭楕円形, 裏が白く, 最も広い部分が中部にある型, 最も広い部分が基部にある型がみられたが, 最も広い部分が中部にある型が多かった. 徒長した枝に付く葉は大きく, 最も広い部分が基部にある型が多くみられた. 側脈 (図7) は45度前後で出る葉もみられたが, 50~60度が多かった.

祁答院町蘭牟田池

雌花序を分解し小花 (図8) を観察した. 雌し



図10. ジャヤナギ. 鹿児島大学総合研究博物館所蔵 (No. 47631). 牧野標本室.



図11. ジャヤナギ. 図10の拡大図.

べのつくりは, 南さつま市万世佐方産と変わりはなかった. 葉形, 側脈の様子も南さつま市万世佐方産と変わりはなかった. しかし2008年7月12日に採集した標本の葉が褐色を帯び, 葉質が厚く, 葉形が狭い披針形の個体がみられた. また, 側脈の出る角度が大きく, 葉脈の形も乱れていた.

■ 考察

オオタチヤナギの特徴は, 葉形は狭楕円形, 中部が幅広く (吉山, 2000), 側脈の出る角度は50~60度 (長谷川, 1988), 花は雄株, 雌株とも知られ, 子房に柄がなく, 腹腺体が1個稀に2個 (木村, 1989) としている.

南さつま市万世佐方のヤナギ類の葉形は狭楕円形, 葉脈は50~60度, 腺体は腹腺体が1個と形質が一致している.

ヤナギ類の種子の寿命は1週間くらいで, 水面に落ちるとすぐ発芽する (吉山, 2000). 南さつま市万世佐方は休耕田が湿地化して, その間に



図 12. 標本(蘭牟田池). 鹿児島大学総合研究博物館所蔵 (S. Hatusima & S. Sako, No. 25232).



図 13. 葉脈. 図 12 の拡大図.

オオタチヤナギの種子が入り込み、この 10 年くらいに群落をつくったことが考えられる。これらのことか南さつま市万世佐方産のヤナギ類はオオタチヤナギと判断した。

蘭牟田池産のヤナギ類は腺体が 1 個みられ、側脈が 50 ~ 60 度で出て大きく曲がり葉縁に達すること等からは南さつま市万世佐方産と同種と判断した。雄株がみられなかったのは観察時期が 4 月 30 日と遅く、雄花は落下したと推定した。

鹿児島大学総合研究博物館標本室に蘭牟田池産の花のない標本が 2 枚あり、ナンゴクジャヤナギ *S. hondoensis* Koidzumi と同定してある。1 枚の標本 (図 12) には Sept. 1, 1960 S. Hatusima & S. Sako No. 25232, ジャヤナギ? とあり、初島は再検討しナンゴクジャヤナギとした。一方、1986 押川 s.n. は、異質な葉の標本が同一の台紙に 2 枚貼ってある。この 2 枚の標本 (S. Hatusima & S. Sako No. 25232 と押川 s.n.) の葉形、葉質、葉脈 (図 13) について検討した結果、オオタチヤナギと判断した。

初島 (1986) はナンゴクジャヤナギを新称としたが、初島 (2004) では載せておらず、まだ正式に発表されていない。

■ 謝辞

本調査にあたり、馬田英隆氏 (鹿児島大学農学部) には写真撮影の便宜とコメントをいただきました。また、落合雪野氏 (鹿児島大学総合研究博物館) には標本閲覧の便宜を図っていただきました。ここに記してお礼申し上げます。

■ 引用文献

- 石井英美, 2009. 樹に咲く花, 離弁花 1. 山と溪谷社.
 北村四郎, 1979. 原色日本植物図鑑, 木本編 II. 保育社.
 長谷川義人, 1988. 神奈川県植物誌. 神奈川県立博物館.
 木村有香, 1999. 日本の野生植物, 木本 I. 平凡社.
 初島住彦, 1964. 鹿児島の自然, 鹿児島の植物, 蘭牟田池. 鹿児島県理科教育協会.
 初島住彦, 1978. 鹿児島植物目録. 鹿児島植物同好会.
 初島住彦, 1986. 改訂鹿児島植物目録. 鹿児島植物同好会.
 初島住彦, 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館.
 原口虎雄, 1971. 薩隅地地理纂考. 鹿児島県地方史学会.
 益村 聖, 2000. 九州の花図鑑. 海鳥社.
 水野隆夫, 1981. 県立自然公園, 鹿児島大百科事典. 南日本新聞社.
 南谷忠志, 2004. 宮崎県総合博物館総合調査報告書. 宮崎県総合博物館.
 大野照好, 1984. 蘭牟田池の泥炭形成植物群落, 日本の天然記念物, 植物 1. 講談社.